

世界の音楽ファンを魅了するマツイーエフがいよいよ日本ソロ・リサイタル  
ロシア文化フェスティバル20周年・日ロ国交回復70周年スペシャルコンサート

マツイーエフ  
デニス

巨星ピアノの

1998年第11回チャイコフスキー国際コンクール優勝  
2019年第16回チャイコフスキー国際コンクールピアノ部門審査委員長

2026年

**6月1日(月)** 14:00 横浜・みなとみらい大ホール  
全席指定 S 8,000円 A 6,000円 B 5,000円

**2日(火)** 19:00 東京・浜離宮朝日ホール音楽ホール  
全席指定 8,000円

**4日(木)** 14:00 東京・浜離宮朝日ホール音楽ホール  
全席指定 8,000円

**5日(金)** 14:00 神戸・兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール  
全席指定 S 6,000円 A 5,000円 B 4,000円

演奏プログラム

J.S.バッハ=ブゾーニ  
無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 二短調より  
「シャコンヌ」

ベートーヴェン  
ピアノソナタ 第23番 へ短調 「熱情」作品57

チャイコフスキー  
瞑想曲 二長調 作品72-5

プロコフィエフ  
ピアノソナタ 第8番 変ロ長調 作品84

お問い合わせ・お申し込み  
ロシアン・アーツ ☎03-5919-1051

russian-arts@e-mail.jp

■MIYAZAWA & Co. [MIYAZAWA&Co. チケット](#) 検索

■チケットぴあ <https://t.pia.jp/>  
■ローソンチケット <https://l-tike.com/>  
■イープラス <https://eplus.jp/>



MIYAZAWA & Co.

■横浜みなとみらいホールチケットセンター(横浜公演のみ)  
☎045-682-2000 (10:00~17:00)

■朝日ホール・チケットセンター(東京公演のみ)  
☎03-3267-9990 (日・祝除く10:00~18:00)

■兵庫芸術文化センターチケットオフィス(兵庫公演のみ)  
☎0798-68-0255 (10:00~17:00)

主催/ロシア文化フェスティバル組織委員会  
& ロシアン・アーツ

共催/MIYAZAWA & Co.

後援/ロシア連邦外務省・文化省・  
駐日ロシア連邦大使館・ロシア連邦協力庁・  
INARTEX・日ロ協会



## デニス・マツエフの魅力

佐野真澄(ピアノ教育・音楽学)

あのマツエフが、また来日してソロ・リサイタルを開いてくれる! このような機会をずっと心待ちにしていました。1998年第11回チャイコフスキー国際コンクール(ピアノ部門)で優勝して以来、何度も来日して、2008年にテミルカーノフ70才記念でセントペテルブルクフィルハーモニー交響楽団のソリストとして来日演奏、2017年にはラフマニノフのピアノ協奏曲全曲演奏会、さらに2020年にはコロナ禍の中、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団とともに真っ先に来日して、東京・大阪・川崎・北九州の4都市で演奏会を開いてくれたことは、今でもはっきり覚えています。デニス・マツエフは1975年6月11日、バイカル湖西イルクーツクの音楽一家に生まれ、現在50歳。1991年15歳でモスクワに移り、1994年にモスクワ音楽院のアレクセイ・ナセドキン教授、後にセルゲイ・ドレンスキー教授に師事しました。背が194cmと非常に高く、恵まれた大きな体格と、厚みのある大きな手と指を持つ。豊かな音量と深い打鍵で、ロシアの作曲家をはじめとする壮大なスケールの音楽を余すところなく聴かせ、並外れたテクニックを持ち合わせているので、演奏困難な箇所も、揺るぎない安定感と余裕を持ってピアノを自在に操り、スピード感やダイナミックな表現とともに、極めて抒情的な美しさや、しなやかな感性が伝わってくる類い稀なピアニストです。子どもの頃からスポーツや木登りが好きだったマツエフは、2014年ソチ冬季オリンピック閉会式でラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を演奏。また、モスクワのサッカーチーム「スパルタク」の大ファンで、2018年にロシアで開催されたFIFAワールドカップのアンバサダーを務めたりと、スポーツとのかかわりも強い。世界の主要なコンサートホール、音楽祭や芸術祭に招かれ、名だたる交響楽団のパートナーとして活動して、海外の需要が高いにもかかわらず、ロシア各地の芸術の発展を最優先事項と考えて精力的に行動し、後進の若い音楽家たちの教育への貢献、文化の普及にも尽力しています。何時でも何でも、さらっと弾いてしまうように思えますが、どこでも誰に対しても、ステージには150%の準備をして出ていくと言います。そこには自分自身への厳しさ、観客への献身、音楽に対する尊敬の念を感じます。コロナ禍を経て、今度は複雑な国際情勢に巻き込まれ、昨年は、常に支えてくれた父の死という深い悲しみに直面し、マツエフの心中は計り知れませんが、誠実で人間味あふれる未来に向かって全力で進んでいくマツエフを、こちらも全力で応援し、日本のステージで会える日を指折り数えて待ちたいと思います!

©Vladimir Vasilchikov

## 曲目解説

石田一志=音楽評論家

### J.S.バッハ： ヴァイオリンのためのパルティータよりシャコンヌ (ピアノ編曲ブゾーニ)

ケーテン時代の1820年頃に作曲された「無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番二短調BWV1004」の終曲(第5楽章)であるパッサカリアは、精神性の深さを湛えたJ.S.バッハの屈指の名作で、単独でも演奏される。荘重な主題とその30の変奏曲は、デモーニッシュな32分音符の疾走、あるいはヴェールのようなアルペッジョ、そして壮麗な二長調部分へと見事な緊張と弛緩の流れで推移してゆく。ブラームスによる左手用練習曲としての編曲もあるが、F.ブゾーニによる編曲(1897年頃)は、この曲の記念碑的なスケールの大きさ、精神性、巨匠性といった側面を強調している。1920年に刊行された7巻からなるバッハ=ブゾーニ全集の第3巻にオルガン作品のピアノ編曲と共に収められている。

### L.ベートーヴェン： ピアノ・ソナタ第23番へ短調「熱情」作品57

1804-05年に作曲され、永遠の恋人といわれるテレゼの兄、ブルンスヴィック伯爵に献呈されたベートーヴェン中期の最高傑作。雄大な規模と内容の3楽章作品で、第1楽章の冒頭主題が、第2第3楽章の主題に影響を及ぼしているため、全曲の有機的な統一感が強いのが特徴である。そして激しい情熱と嘆き、幸福へのあこがれが全曲に溢れている。また、「運命の動機」も加わる第1楽章の冒頭部分を含めて、情熱的で激しい闘争的性格は交響曲第5番と共通するところがある。標題は作曲家自身のものではなく、1838年にハンブルクの出版社クランツがこの曲のピアノ連弾版を出版した際に付けられたものだが、この曲に、似つかわしい命名といえよう。

### P.チャイコフスキー： 「瞑想曲」ニ長調 作品72-5

チャイコフスキーは最後の年である1893年も国際的な指揮活動と交響曲第6番の作曲とで充実した日々を過ごしていた。交響曲第6番は2月に着手され、3月半ばに下書きが完成された。それに続いて4月にタリンで2週間ほどの短期間で書き上げたのが、この「18の小品」作品72であった。単純な形式の小品集ではあるが、変化にとんだ曲想、旋律表現、音色などによって洗練されたピアノイズムが味わえる曲集となっている。これはその第5番で、夢想的で詩情溢れる小品である。

### S.プロコフィエフ： ピアノ・ソナタ第8番変ロ長調 作品84

プロコフィエフが独ソ戦の最中に作曲した第6、7、8番の3作のソナタは「戦争ソナタ」3部作と呼ばれている。1923年の第5番から10数年もの間、遠ざかっていたピアノ・ソナタの創作であったが、長い沈黙後に発表したこれら3部作によって、プロコフィエフは一気にこの分野の頂点を極めたのであった。

いずれも1939年に着手されているが、完成は第6番が40年、第7番が42年、そしてこの第8番は交響曲第5番と同じ1944年であった。そして同年12月30日に当時28歳であったギリリスによって初演され、晩年に生活を共にした女性ミラ・メンデルソンに捧げられた。

同じ3楽章構成で緊張感に溢れる第7番よりもはるかに規模は大きく温かな雰囲気を感じている。アンダンテ・ドルチェの平安な感じの第1楽章。スラブ舞曲風の主題による変奏曲の第2楽章。華やかなコーダをもつ劇的に展開されるときりわけ長大なロンド形式の第3楽章から構成されている。